

2. 事業の目的と概要	
(1) 上位目標	バルカ県南シューナ郡の女性の経済的自立
(2) 事業の必要性 (背景)	<p>ヨルダン国は包括的な国家戦略である「国家アジェンダ 2006-2015」を策定し、国家における重要な課題として位置付け、主な目標に収入向上の機会拡大、生活水準の向上、社会福祉の補償を通じて国民生活の質を改善することを掲げている。主な数値目標として、2015年までの女性に対するあらゆる差別を撤廃することと、2013年から2017年までの期間は、産業基盤の改良と強化とし貧困と失業を減少させ、一人当たりのGDP増大のため改革を推進し、同時に女性の経済活動への参加と貢献に対する期待が高まっている。</p> <p>当該事業地である南シューナ郡で活動する現地NGO団体（Al-Jawasreh Charity Association for Women）はパレスチナ難民の貧困層が多く居住する地方部にあり、宗教・伝統的背景から社会参加の機会に恵まれない女性、その中でも未婚や寡婦でもある女性を中心として構成されている。保守的な風土が根強く残る地方部で、女性の立場は非常に弱く、生活は家族や親族に頼って生きているのが実情である。そのような女性たちにとって、技術を身につけ収入を得るための手段があることは家族や親族の経済的負担の軽減に繋がり、女性たちの家庭内や社会的立場の改善となる。</p> <p>ヨルダン国内、特に南シューナ地方など南部地方は外国人男性経営による仕立屋は僅かに存在するが、女性が表立って仕立屋を営むことは非常に少ない状況である。購入した洋服の仕立て直しの場合も女性の仕立屋が殆ど存在しないことから、女性たちは家族以外の男性へ仕立て直しの依頼をすることになり、宗教・伝統的背景から彼女達の中には問題意識が存在している。</p> <p>この現状から洋裁技術は現地女性から要望が出ており、社会的立場の弱い女性にとって年齢を問わず永続的に受け継がれることができ、確実に現金収入が見込める仕事であることから、女性の社会進出向上に貢献できる事業である。</p>
(3) 事業内容	<p>事業3年目となる本年は、現地事業責任者と現地事業担当者（洋裁の技術指導者）が現地に常駐し、年間を通して技術指導にあたる。事業全体の活動内容は次の通りである。</p> <p>まず、日本品質基準の中級から上級をクリアするために、素材が繊細で扱いの難しい正絹の着物地を利用、裁断縫製に高度な技術が必要なため、事業内で上級レベルに達するまでを指導する。世界的に通用する品質を生み出すための製図から裁断、縫製検品に至るまでを、着物地の生地難を省きながら最も美しい部分を利用した高品質の製品を作り上げる。これらの訓練から洋裁技術の応用力が付き洋裁分野での多角的な活躍が期待できる。当事業のスキルから循環型社会への貢献も踏まえた、ヨルダン伝統衣装の再利用への活用も期待される。</p> <p>定期的にマーケティング授業を組み込み、ファッションに関する総合的な知識を習得し、販売促進等実践に即した訓練を行う。また4度のワークショップを開催、当事業の洋裁技術への更なる理解のために、洋裁に纏わる資機材の修理方法と仕立屋経営のためのノウハウを学び、ファッション</p>

	<p>ビジネス界を多角的に学ぶ。同時にカウンターパート代表者と村人、訓練生が意見交換の機会を設け、定期的に生活水準向上への協議の場を持つ。</p> <p>当事業内ですべての情報をマニュアル化し生産から販売までの一連のガイドラインを制定し、それに沿い受注から納品までをカウンターパート・裨益者が主体的に行えるようにする。</p> <p>以上の総合訓練により、生産に対する透明性の確保や地域の実情に即した生産・品質管理が期待できる。作品はヨルダンの伝統衣装と日本の着物地を融合させ、伝統文化を共存させた新たな作品を提案し、ヨルダン市場に介入していく計画である。事業終了時には作品発表会とファッションショーを開催、3年間の修了式も行う。村レベルではコミュニティの女性や村人、シューナ郡社会開発省や村の行政の代表、ヨルダン社会開発省担当官などを招致し、事業の進捗について確認、事業撤退後のカウンターパートへの活動へ活かしていく。具体的に以下のような活動を実施する。</p> <p>(イ) 洋裁指導の年間カリキュラム（製図・裁断・縫製・検品）で取組む制作レベルは、日本品質基準の中級から上級レベルの洋服 10 デザイン（計約 82 枚）、手芸小物 6 デザイン（計約 140 個）。</p> <p>(ロ) 指導教材の素材として、日本全国から寄贈された天然素材の絹・綿・麻の着物を再利用する。年度末には3年間の習得技術披露の場として、作品発表会とファッションショーを行う。</p> <p>(ハ) マーケティング授業から、ファッションに関する総合的な知識を習得し、実務に即した訓練を行う。</p> <p>(ニ) ヨルダン国内のミシンの修理屋・仕立屋から講師を派遣、校外学習も組み込みファッションビジネス界を多角的に学ぶ。</p> <p>(ホ) 当地で制作された完成品は日本や米国で催す「リボンウェアチャリティ展示即売会」に出品。</p> <p>(ヘ) 制作した作品をヨルダン国内で販売するため販売ルートを開拓、情報をマニュアル化しパソコンによる実務レベルの生産管理を指導する。</p> <p>(ト) 洋裁指導テキストブックとして、日本語・英語・アラビア語の教科書を作成。</p> <p>(チ) 週に一度のボディフィッティング授業を行う。自身で仕事を得ることで齎される様々な問題を自分で解決してくための訓練とし、教材は訓練生が自身で探してきた仕立て直しが必要な洋服を使用、実質の稼働時間とランニングコストを含めた妥当な仕立て直し代金を算出する授業を行う。</p>
(4) 持続発展性	<p>1. 当該事業で投入された資機材や洋裁用具は事業終了後、現地連携 NGO 団体に寄付され、団体代表者のもと裨益者自身で維持・管理していく。維持・管理方法については、事業内で訓練生に伝授していく。</p> <p>2. 事業終了後のフォローアップ計画については、実施体制を含め、事業中に現場や訓練生の状況に即しつつ詳細をさらに詰めて行く予定だが、基本的には現地提携 NGO 代表が定期的にフォローアップワークショップを招集、訓練生とともに開催し、移転した技術が維持されているか当会へ報告。報告内容を当会で精査し、日本から改善点などをフィードバックし、技術維持、向上に対するアドバイスを与える方向。具体的には、現地提携 NGO 代表と3期目の新規雇用の現地スタッフが訓練生全体を管理。事業終了後、3期目新規雇用スタッフ1名は現地 NGO スタッフとなり、外部の受注開拓や地域女性の間での洋裁技術訓練の場を確保する。また、パソコンを使用</p>

	<p>した商品の生産管理・納品も行い、現金収入を継続的に得る仕組みを維持する。</p> <p>3. 事業3年間の訓練を終えた裨益者の中で、出席率・作品の完成度などを総合評価し、優秀な者には現地連携 NGO 団体を通じてミシンを無料レンタルの方向。自宅で仕立屋を営める選択肢を持たせ、自立性を高めていく。</p> <p>4. 事業内で、裨益者らとともに現地で売れる製品を考案、材料調達から製品にするまでを緻密に訓練、販路開拓も行う。事業終了後は、当事業のカリキュラム内で得た市場開拓情報を元に、さらなる販路や製品を裨益者が主体的に開拓。開拓した販路への商品を製作し、実際の収入創出を目指す。</p> <p>5. 訓練生の中から、リーダーとなる人物を成績・出席率・理解度の総合評価から選出。地域での洋裁技術指導者として地域の女性達への洋裁指導を実施し、技術を受け継いでいくことが、地域の連帯と女性のエンパワーメントに役立ち、受け継がれた洋裁技術を永続的に維持していく。</p> <p>以上のフォローアップ計画および実施体制は、事業進捗状況、現場や訓練生の実際の状況を確認しながら、必要に応じて軌道修正を行いつつ、最終的に最も望ましい方向性を現地 NGO 代表や訓練生らとともに事業中に作り上げていく予定である。</p>
<p>(5) 期待される成果と成果を測る指標</p>	<p>今期裨益者数：約 330 名</p> <p>南シューナ郡 アル・ジャワスレ村、アル・ジョーフア村の寡婦や未婚女性、及び貧困層の女性とその家族 約 330 名</p> <p>今期直接裨益者予定数＝約 30 名</p> <p>今期間接裨益者（家族・親族・村の女性）約 10 名×30 名＝約 330 名（フェーズ1～3を通しては直接裨益者数 70 名、間接裨益者数 700 名）</p> <p>(期待される成果)</p> <p>(イ) 村の縫製工場の管理者から技術習得者の積極的な雇用依頼を受けており、優秀な者は洋裁の全般を理解しているため、指導者レベルでの採用の可能性もあるとの見解を頂いている。その場合、事業地人口の約 15% の生活水準が向上する。また事業内で日本品質基準を達成した作品には、当会が仕立て代を支払う。洋服一着当たり平均 7JOD、手工芸品一点当たり平均 3.5JOD が直接裨益者へ支払われる。（自己資金または現地で納品した時の利益）生産効率を上げ、洋服 3 着・手工芸品 6 点を納めた場合、月平均 45% の生活水準向上に値する。</p> <p>(ロ) 習得した技術は、訓練の中で上級レベルに達し訓練生の約 80% が洋裁技術の基礎と応用を理解する。年度末の制作発表会とファッションショーで習得した技術を披露、3 年間の洋裁技術職業訓練を終了したことを証明する修了証書を寄与する。</p> <p>(ハ) マーケティング授業に参加した訓練生の 7 割が商品の流通について理解し、裨益者が自立したときに生産・納品のシステムが構築される。既に訓練生のうち 7 名は他事業のマーケティング講座の受講経験があり、当事業内で実践的な経験を積むことが出来る。</p> <p>(ニ) ミシン修理のワークショップから、6 割の訓練生らがミシンの構造と修理法を理解、永続的に資機材を管理することができる。仕立屋のワークショップから、顧客の需要を理解し仕立屋として独立するための手順を理解する。裨益者のうち 10 名が事業終了後、仕立屋を営むことを希望してい</p>

る。校外学習のワークショップからは、商材の買い付け・生産管理担当の人材育成が出来る。ワークショップ内で実践し報告書を提出することで理解度の変化を示す指標となる。

(ホ) 訓練生の技能が先進国の消費者を満足させる程度に達したかを問う指標となり、裨益者の制作意欲と自信が増し自立への可能性が大きくなる。訓練生の製作した作品をバザーに出品し、販売結果などを訓練生にフィードバックする。

(ヘ) 開拓した販売ルートに従い、裨益者が製品を納められるようになる。ヨルダン国内で少なくとも3件の小売店が取引を検討している。受注生産を開始、約1～2年後直接裨益者の収入が約60%向上する。(現在、取引を検討している店舗の管理者は、取引開始の場合1デザインに対して約30点の発注を考えている。3店舗の取引を仮定した場合、月約90点の商品数が見込める。現在の能力は訓練生全体で月15点制作程度だが、能力向上した場合を想定し、1～2年後には6割増の収入と見込んだ。)

(ト) 洋裁テキストブックを作成することにより、日々技術内容についての自主的な反復が可能となり、事業撤退後も技術の維持向上に役立ち、指導者として教材資料にも利用できる。裨益者が自立した際には、数カ国語の受注対応が可能となり、生産の幅を広げることを目指す。(テキストブック作成の目的は、事業終了後も習得した技術の維持、向上を自分自身で行えるよう、訓練生らの自立性を主眼に置いている。テキストブックを参照することで、これまで習得した技術が復習でき、また訓練生が製作したいと希望するデザインについて、自分自身でパターンを作り、製作、注文を受け一連の作業が可能となる。より自立性を確保するために、事業中より事業終了後を想定し、テキストブックを参照しながら出来るだけ自分で作業が出来るよう誘導していく。)

(チ) ボディフィッティング授業は訓練生の主体性の向上、設定された仕立直し代金を裨益者の収入とし、一人月約30JODの収入向上が見込める。依頼者にアンケートを取り、満足度を確認することで将来の指標となる。

(成果を測る指標)

(イ) 事業終了後、直接裨益者らの就職状況および収入の調査を現地提携NGOを通じて行い、実際の効果を検証する。

(ロ) 作品ごとに検品テストを実施し理解度を測る。

(ハ) 検品理解度テストの内容を応用した技術とマーケティングの複合テストを実施予定。

(ニ) この内容全般は事業を達成するために、現在一番足りていないスキルであると認識しており、学習後は訓練生と提携NGO代表者を含めた報告会を実施。将来計画に添った担当者とガイドラインを制定し、事業後実際に行われているかどうかはフォローアップの際にアドバイスを加える。

(ホ) 即売会での販売状況のフィードバック、および即売会来場者への作品品質アンケートを実施。効果を検証しつつ、結果を裨益者にフィードバックすることで、今後の作品制作の改善に活かす。

(ヘ) 裨益者へ生活水準に関するアンケートを実施する。

(ト) テキストブックがどれだけ活用されているか、裨益者に対して使用状況のアンケートを実施し、更に活用方法を伝授する。

(チ) 裨益者へ生活水準に関するアンケート調査、および依頼者への満足度調査アンケート実施。